【様式】

令和２年度　学校マネジメントシート

学校名（　四日市農芸高等学校　）

１　目指す姿

(1)目指す学校像		共通教科並びに専門教科を通した教育活動の充実に努め、専門技術者（スペシャリスト）を育成するとともに、心豊かな人間性を育み、地域社会に貢献できる人材を育成する学校
(2)	育みたい児童生徒像	○将来のスペシャリストとして、専門科目への興味・関心を持ち、専門的な知識・技能の習得を自主的に行うことができる生徒 ○自ら進んで挨拶し、コミュニケーションをとることで、公共心、規範意識、人間関係を築く力をつけ、自尊感情を高めることができる生徒
	ありたい教職員像	○目指す学校像実現に向けて、生徒指導力と学習指導力を高めることができる教職員 ○生徒の可能性を信じ、生徒に寄り添いながら自らも成長することができる教職員

２　現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	＜生徒＞ 専門的な知識や技術の習得、進路希望の実現、人格形成 ＜保護者＞ 安全安心な学校生活の保障、規律ある生活習慣の確立 ＜地域住民＞ 地域の活性化、学校施設の提供、地域防災の拠点	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	＜保護者＞ 生徒が明るく生き生きと目標に向かって努力する。自己実現・進路実現、学校からの情報発信 ＜地域住民＞ 交流の場としての協力、地域行事への協力、地域開放講座などの実施 ＜同窓会＞ 歴史と伝統のある学校としての実績、地域社会に貢献する有能な人材育成 ＜大学等や産業界＞ 有能な人材育成への期待	＜保護者＞ 本校教育活動への理解と協力、特に家庭の教育力の向上 ＜地域住民＞ 本校教育活動への理解と協力、特に生徒の活躍の場面の提供、地域資源の活用 ＜同窓会＞ 本校教育活動への理解と支援、特にインターンシップ受け入れや進路開拓 ＜大学等や産業界＞ 本校教育活動への理解と連携及び支援、特に進路実現や商品開発に向けた連携
(3)前年度の学校関係者評価等	・教育活動として、様々な連携（避難訓練、農芸祭の一般公開、地元小中学校との連携・出前授業等）や協力（販売、地域行事への参加等）により、地域から信頼されている高等学校として評価を得ている。しかし行事等が教職員の負担になっていることは否めず、多忙化の原因のひとつになっている。 ・生徒や保護者の満足度が高いこと、募集人数に対する進学希望者が県内有数であることなど、その数値を維持しつつ、より効率的な学校運営を実施する必要がある。 ・保護者や地域の方々との情報交換を継続しながら、農業と家庭に関する専門高校として、今後も評価を維持しながら、様々な改革を進めていきたい。	
	教育活動	・目標を持って学習や部活動に前向きに努力する習慣が醸成されている。 ・校内での合言葉である「挨拶は農芸の心」が学校文化として浸透し、何事にも真面目に素直に取り組もうとする豊かな心が育まれている。 ・農業教育、家庭科教育をすすめる上で、校内施設設備の充実が急務である。
	学校運営等	・地域や産業界との連携が年々充実する反面、地域からの要望過多により教職員の多忙化や困難化を招いている。 ・業務の簡素化・効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する工夫が必要である。

３　中長期的な重点目標

教育活動	・将来のスペシャリストの育成と地域連携やインターンシップ等の活用を通して、より実践的な学習活動を展開する。 ・基礎学力の充実と専門教科指導を強化し、生徒一人ひとりが持つ能力を引き出し、希望の進路実現につなげる。 ・心の教育や部活動を通して、規範意識を醸成し、生徒の自主性や個性の伸長を図る。
学校運営等	・中学卒業生の減小傾向が進む中で、中学生やその保護者にとって魅力のある「新しい農芸高校」の実現に向けて全職員で取り組む。 ・専門高校の特色を活かした進学に向けた指導体制を確立する。 ・教育相談や特別支援教育の充実のための体制づくりを進める。 ・組織の業務内容の見直し、総勤務時間の縮減に取り組む。

４　本年度の行動計画と評価

（１）教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	・授業を充実し基礎学力の向上を目指すと共にコミュニケーション能力の向上を目指す。 ・高い目標を持たせ積極的に資格取得を奨励する。 ・生徒一人ひとりが納得いくコース選択を目指す ・多面的な学習指導を実施するために図書館を活用する 【活動指標】 ○基礎学力診断テスト、基礎学力テスト（10 回以上）、進路模試、習熟度による補習実施及び皆出席６０％以上等を実現する。 ○生徒が納得するコース選択のため、各学科・コースと連携して説明会や学年通信等を発行する。 ○授業を充実させ, 最大限の授業変更の努力をし、自習時間を減らす 【成果指標】 ○成績不振による原級留置者をゼロにする ○検定合格・資格取得者数のべ１４５０名（１人２つ以上） ○図書館を活用した授業５０時間以上、生徒一人あたりの貸し出し冊数５冊以上 ○基礎学力合格率の向上　８０％以上	コロナ禍の中保護差や授業公開はできなかったが、自習回数 5 回（昨年度 13 回一昨年度 58 回）のみで授業の充実に力を注ぎ、内容の改善に努めた。 農業および家庭教育の中心校として検定合格・資格取得のべ 1488 名（昨年度 1676 名） 図書貸し出し 4.2 冊（昨年度 5.5）など各種コンクールに取り組んだ（資格取得者総数 336 名と昨年度の 375 名からは 40 名程度の減。職業教育顕彰は 11 名、アグリマイスターは 23 名で職業教育顕彰制度については昨年度の半分程度となった。アグリマイスターは全国上位 30 位以内に 3 名の生徒がランクイン）	
進路指導の充実	・進路に対する意識を高め､挨拶の励行と生活マナーの向上を図り、一人一人の進路実現に向けた指導に取り組む ・企業との連携を深め就職先の安定確保に努める ・専門性を活かした進学指導を強化する ・中学生やその保護者にとって将来の進路を考えたとき、本校に入学したいと思える出口対策に努める 【活動指標】	コロナ禍の中、就職で求人数が減少したり、大幅な進路の日程の変更があったりしたが、斡旋希望者全員内定 （公務員合格 1 名）	

	○１学年－勤労観を育み自己理解を深める指導を行う ○２学年－総合的な学習の時間を通し、自己の実現に向け自主的な行動ができる能力を養い、進路の意思決定ができることを目指す ○３学年－進路決定に向け学年と協力し進路未決定者ｾﾞﾛを目指す ○学年・学科との連携を強化し、主に四大進学希望者への早期からの指導を行う 【成果指標】 ○１年の進路講話を４回以上実施 ○各学年進路希望調査を年２回実施　２・３年生は１回以上の個人面談実施 ○進路広報誌「あすなろ」を１年３回２年５回３年８回以上発行 ○学年、学科と連携し 150 社以上の企業訪問を行う。生徒は３社以上の企業見学実施　　○３年校外模試を３回実施 ○国公立・難関私立大学への合格者１０名を目指す	進学は、専門学校希望者が増加(6%増) 難関大学合格者数は受験希望者が少なく三重大学２名合格に留まった 全体として活動指標は進路ＬＨＲ・模擬試験など中止・縮小せざるをえないものもあったが、学年、コース、教科などとの連携等により、現状に合わせておおむね指標に近づけた。 就職 48.5%　四大１０．３% 短大 9.4%　専門学校 27.5%　その他 4.3%	
生徒指導の充実	・遅刻、欠席を減らし、校則の遵守と、日常的な校内美化指導、環境教育を指導する ・担任と生徒指導部の連携強化を図る ・組織的な生活指導を通じて生徒の問題行動の抑止を図る ・日常の挨拶の徹底と、生活マナーの大切さを指導する ・部活動や学校行事への積極的な参加を促す 【活動指標】 ○月例の生活点検を実施する ○毎日の登校指導等を通じて挨拶の励行を図る ○環境デー、校外清掃ボランティア等を実施する ○部活動を充実させる。 【成果指標】 ○月例生活点検初回合格者９０%以上、再点検合格者１００%を目指す ○全教員の１００%が生徒に対しての声掛けが出来ていると感じることを目指す ○全生徒・教職員の８０%以上が挨拶は出来ていると感じることを目指す ○全生徒・教職員の８０%以上が状況に応じた言葉遣いができていると感じることを目指す ○生徒会行事を良かったと感じる生徒が８５%以上 ○クラブ加入率７０%以上 ○環境デー校外作業への参加生徒が全校生徒の７０%以上	学年団との連携で、生活点検の合格９０%達成。しかし締切りまでに達成できない生徒も存在し、期限を守る感覚を身につけさせたい。 ・挨拶、言葉遣いについては生徒の実感に対して、職員の感覚に開きがあり、問題行動が少なく落ち着いている今だからこそ、職員間でしっかり指導する意識を持っていきたい。生徒に対しての声かけが「出来ていない」と答えた職員の存在は心配な点である。 ・コロナの影響は今後も続くが、職員が一丸となって対応するのが大切である。全職員による登校指導をはじめとする取り組みにより、問題行動を未然防止していきたい。 生活点検 月例 90%、再点検合格 99% 挨拶　教員　90% 生徒 89 行事好感度 生徒 80%教職員 63% 部活動加入率 88.6%	

農業教育の充実	専門科目における資格を推進し、将来の進路に向けた学習意欲の向上を図る ・農業教育を充実させ、関連分野への興味関心の向上を図る ・農業クラブ活動を充実させる ・専門性を活かす進路先の確保のための企業開拓、各機関との連携を図る ・農業教育の推進のため適切な施設設備の活用、更新を図る 【活動指標】 ○専門教科を通じて、資格取得講座の開設及び指導を行う ○インターンシップ、ファームステイ等への取り組みを促し、農業関連分野へ興味関心を深める ○ＧＡＰ更新を行いＩＣＴを活用した授業の展開を行う。 ○生徒の希望に応じたコース決定指導を行い、ガイダンス、面接等でミスマッチの無いよう配慮する ○老朽化した施設設備の改修と予算化を要請、計画実施する 【成果指標】 ○推奨する資格取得者、延べ 300 名以上、職業教育顕彰 30 名以上、ｱｸﾞﾘﾏｲｽﾀｰ顕彰 25 名以上、農業クラブ競技会（県大会で最優秀４つ以上、東海大会優秀賞を２つ以上、全国大会優秀賞４つ以上） ○農業学科における生徒の認知度８０％以上 ○コース選択満足度 100%、学習環境での生徒満足度 90%を目標とし、学習環境を整え、生徒満足度 90%を目標とする ○各種イベント、出前授業、地域開放的な取り組みを積極的に行い、地域に根ざした学校づくりを行う	資格取得者についてはコロナ禍の中で授業時間や検定延期又は中止等がある中、昨年度より若干の減で、取得総数は 740 と昨年度より若干多く、取り組み状況はよく頑張っているといえる。顕彰制度は 11 名と今年度は水準を満たせる生徒が少なかった。アグリマイスターは昨年と同程度の人数が取得できた。今年度においても他校に比べ高水準を維持しているので、今後も継続した指導を緩めないように協力していく。 ＧＡＰ推進についてはグローバルＧＡＰ、アジアＧＡＰの継続審査も更にＭＰＳ認証においては全国の農業高校では 3 校目の取得となり、今後ＨＡＣＣＰ等様々な認証制度への取り組みが盛んになる思われる。ＪＧＡＰへの移行、新たな品目への取り組みを図り、生徒達の自主的な活動を推進する体制づくりに努める。 来年度からは新学科体制が始まるので、職員が協力し合いより良い教育内容を生徒に提供できる仕組みづくりを行う。	
家庭科教育の充実	・専門的な技術を向上させ、各種ｺﾝｸｰﾙ・ショーに入賞できるよう指導するとともに家庭クラブ員としての自覚を持たせ、生活文化科の生徒全員が積極的に活動を行う 【活動指標】 ○進学に向けた専門知識の充実を図るために補習授業を行う ○教員が各種講座や研修会へ１回以上参加し、専門知識をより充実させ授業に還元する ○専門科目における資格取得を勧め、上級の資格取得に取り組む ○地域連携の機会を増やし、なるべく多くの生徒が地域と関わりを持ち、社会マナーの充実を図る 【成果指標】	家庭クラブ員充実度 95.74% 小論文指導・面接指導実施 資格取得→延べ人数 736 人 生徒満足度 100%進路希望達成者 100%、面談　２，３年全員１回実施。　休校の影響はあったが、オンラインの活用、実習の感染対策等で例年並みの授業内容、充実ができた。資格取得は、実施されない検定・講習会で目標を達成	

	○家庭クラブ活動の充実度 90%以上、資格取得者数延べ 800 名以上を目指す ○社会マナーに関する個別指導の機会を一人につき、２年生に対して１回以上、３年生に対して２回以上、持つ ○地域連携参加生徒の満足度９０％以上を目指す ○将来の進路希望を固めることのできた者 90%以上を目指す	できなかったが、合格できるよう努力させた。行事の中止が相次ぎ、外部講師授業や地域連携等影響があった。 生徒情報、進路希望など、担任と、科・授業担当者等と共有し見守り、マナー指導等今後も継続していきたい。	
人権教育の充実	・生徒・教職員が様々な人権問題を正しく理解・認識するための取り組みを推進する ・校内人権教育推進委員会において人権教育推進計画を作成し、実施することにより人権教育を推進する ・生徒個々の家庭状況や進路目標などを把握し適切な指導を行う。【活動指標】 ・個別面談週間、三者面談、家庭訪問等の実施 【成果指標】 ・進路満足度、個別面談、三者面談の回数、充実度	コロナ禍であっても生徒把握のため年度当初の個別面談等を実施し、生徒のケアと進路実現や悩みの把握に努めた。人権委員会の計画的実施により情報共有と生徒の人権意識の向上に努めた。PTA 等と連携し講演会等により人権研修ができ、職員及び生徒の人権意識と知識の充実を図った。	

改善課題

農業学科の学科改編もあり来年度入学生から、進級、卒業認定の判断について内規を改定した。昨今特別な配慮が必要なケースの増加により、より丁寧な指導が学習、進路、生徒指導において必要となっている。

　現在、入学を希望する生徒が安定しており、アンケートによる満足度・充実度から学校行事などの日々の教育活動は充実している。しかし業者による各種の指標では、生徒の学力の伸長度が低いとの報告もある。現段階において、長い目で見た生徒の利益に繋がる充実した学習指導を行う必要がある。教職員の教育意識を高め、進学指導、教育活動の改革、新たな教育課題への取組等へ繋げて行きたい。

（２）学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
働きやすい環境づくり	総勤務時間の縮減に向けて、働き方改革に取り組み、働きやすい環境をつくる。 【成果指標】　〔令和元年度比較、(　　)内は令和元年度実績〕 ○１人当たり月平均時間外労働時間30時間以下に削減 （R1：33.3時間/月→R2：25.0時間） ○年360時間を超える時間外労働者数を０人に削減 （R1:30人/年→R2:26人/年） ○月45時間を超える時間外労働者の延べ人数を０人に削減 （R1:143人/年→R2:111人/年） ○１人当たりの年間休暇取得日数を20日以上 （R1:18.9日/年→R2:17.0日/年） 【活動指標】 ○定時退校日を定期考査期間中とし、定時に退校できる職員の割合85％を目指す。　（R1:75.9％→R2:76.7％） ○部活動休養日を予定通り週1日設定した部活動の割合100％を目指す。　（R1:99.4％→R2:100.0％） ○放課後に開催され６０分以内に終了する会議の割合85％を目指す。 （R1:57.3％→R2:72.9％）	機械警備の導入、時間外労働時間の一部短縮ができた。定時退校日や、過重労働対策なども継続して模索したが、コロナ対策など多様減ることはなく、職員の過重労働が解消する見込みは少ない。特に一部の教職員が部活動や生徒対応による負担が多くなっており、職員間の労働条件の平準化が急務である。引き続き定時退校日、部活動休養日等職員の過重労働の軽減策を継続して続けていく。会議の精選と短縮は今後も徹底していくが、不必要な調査や研修のなくすことを県教委などにも求めていきたい。	
開かれた学校作りと組織運営の充実、情報提供による信頼の定着	・学校説明会、入門講座、農芸祭、各種講習会等、校外から参加する催しの企画運営を見直す。 ・ＨＰの効果的な運用を検討し、最新の情報を発信する ・文書及びHP、絆ネットによりPTA行事や保護者公開の学校行事などの 紹介に努め、教職員との共通理解・連携を進める ・ＰＴＡ理事会を充実させ、ＰＴＡ行事の改善を図る。 【活動指標】 ○電子掲示板を活用し、情報提供に努め、毎日運用する 【成果指標】 ○学校説明会・高校生活入門講座、農芸祭等の参加者の満足度９０％以上 ○ＨＰの更新月３回以上	ＰＴＡ活動、地域連携活動など農芸高校特有の連携活動は今年度はコロナ禍もあり多くの行事が縮小された。来年度は、企画運営を見直しも含め必要な活動を実施していきたい。 またＨＰ等の更新（年間 30 回以上）や、学校説明会の目標（満足度 90 以上）は達成したでなく、来年度ＨＰのリニューアルへの目処がたっており。、新たな情報発信ができそうである。	

環境教育の充実	・環境教育で「育てたい生徒の力」を共有し、日常の教育活動の中で環境教育を実践する ・地域とのコミュニケーション活動を推進する 【活動指標】 ○校内の委員会に位置づけ組織的に取り組む ○環境マネジメントシステムにおける本年度の実施計画を策定し全職員で共有する 【成果指標】 ○６月に環境週間、１０～１１月に環境月間を設定し期間中に全教職員が各々の授業で環境教育を実践する ○地域清掃活動を実施する ○全職員協力のもと、ＩＳＯ１４００１の趣旨に乗っ取った環境マネジメントシステムを維持する	平成 14 年度から継続しているISO14001 認証により、教職員ならびに生徒への周知がされている。反面、環境週間、環境月間はコロナ禍により清掃イベントは実施できなかった。しかしゴミの分別、リサイクルへの意識などが定着している。ISO14001 はその費用が学校教育への負担になっており、その継続を含め、あらたな環境教育へのステップアップを来年度以降模索していきたい。	
危機管理体制の充実と生徒・教職員の安全安心を守る取組	・危機管理マニュアルにより、危機管理にかかわる訓練を実施し、いざという時に備えられる組織運営を目指す。 ・生徒の各種検診を充実させる ・情報共有を充実させ、保健室利用、学校生活において気になる生徒など担任、学年分掌との情報交換・共有を密にし、迅速な対応連携する 【活動指標】 ○必要に応じてスクールカウンセラー・発達障がい支援員につなげ、支援体制を構築する ○再検査等の連絡及びその診断結果の回収を確実に行う ○保健部研究会等を充実させる 【成果指標】 ○年２回の防災訓練を実施する ○内科検診、胸部Ｘ線、心臓検診、検尿等の受診率100％を目指す ○再検査の連絡等は１００％実施する ○AED講習(職員対象5月：生徒対象7月)を２回、エピペン講習等を実施する。 ○性教育講座(1学年対象7月)を実施する。 ○保健教育にかかる掲示や保健便り(学期2回:保健委員作成)の発行 ・保健部研究会での発表(2学期末) ○食育・食生活指導:農芸祭での食品調理説明会を実施する	生徒及び教職員の健康診断受診率 100％など生徒と教職員の健康安全に対する対応は実現した。反面 AED 講習や性教育講座、地域連携の避難訓練等は実施できなかった。防災訓練は予定通り実施ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰや発達障がい支援員の活用を積極的に行い、生徒だけでなく、保護者や教職員に対するケアを実施した。 年度を通してコロナウイルスの影響があり、その対策について、危機管理に関する安全教育の徹底で考えられる対策を実施できた。そのため生徒の長期欠席や不登校等生徒の履修や出欠にかかる問題はなく、卒業進級など安定した学校生活に配慮できた。	

改善課題

今年度、農業学科再編、コロナによる学校休校、様々な学校行事の変更、関連した今までと異なる保護者連携など学校運営上、問題となる様々な課題が判明した。特に教職員の過重労働や一部の担当者への職務分担が大きな問題である。またその認識にも温度差があり、本来の職責を果たす役割を担う立場を再構築したい。これらの課題は、まだ生徒には直接影響は及んでいないが、職員の減少や職務の変遷は、よほど気をつけた配慮を実施しないと課題の解決には至らない。次年度以降は、教育相談・特別支援については、スクールカウンセラー・発達障がい支援員、就職支援、進路指導は支援員へ、農業、家庭教育はインターンシップや地域の指導者を活用するなど「チーム学校」を見直し、課題に対応していきたい。

５　学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への取組方向	コロナ禍により各種のイベントや行事が縮小する中、学校関係者に文化祭を公開し、日頃の教育活動や生徒との交流をしていただき、高い評価をいただいた。生徒の挨拶や取り組みに直に接し本校の取組に対する指針が認められた感がある。しかし様々な連携や協力、行事等が生徒や教職員の負担になっていることは否めず、多忙化の原因のひとつになっている。地域の理解は重要課題だが、生徒の学力を伸ばし、進路を保証し、生き生きとした学校生活を送らせることが最優先であり、生徒の満足度が高い数値を維持しつつより効率的な学校運営を実施したい。今後も情報交換を継続しながら学校教育を進めたい。

６　次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	様々な学校行事変更や学習活動の変化により、農芸生としての自覚を持ち、意欲的に生活できた生徒と、自覚が弱く、他人任せで協調性の乏しい生徒との差が大きく開いたと感じた。どんな状況においても全体への徹底した指導と個別の指導を適宜行い、自覚を促し、生徒をより成長させる教育活動を実践することが重要である。そのためより、精選した学習支援と自信をつけ社会に役立つ資格格試験充実などが求められる。また部活動やクラス運営も、生徒の自立とコミュニケーション活動には不可欠であり、どんな場合においてもおろそかにすることなく取り組んでいきたい。高校生活における学習の意味や目的等、原点に立ち返り、指導をしていくのが必要である。
学校運営についての改善策	農業学科の再編により、30 年間で初めて体験する生徒数の減少となる。よって来年度あらたな課題や学習活動に大きな変化が予想される。課題に対応するためには、教職員の定数も変わるため組織を再編し効率的な学校運営が必要である。ＩＴや学校外の人材活用（SC.SSW 等)、校内組織の改革だけでなく、効率的な学校経営が求められる。教諭、及び実習助手の分掌配置、部活動の縮小や顧問の再編成を生徒の学習に沿った形で実施し、農芸高校の新たな学校運営に取り組んでいきたい。